

“いよいよ底打ち期待の4月相場へ、引き続き我々は 買い線出現や買い条件合致による出動開始を待ちつつ、 来月11日以降は高市トレードにて利益の積み上げを”

この相場は3月に調整入りするとして、皆様には2月14日より「一旦調整が入るまでは、持ち株の追い上げを主体とし、新規投資はやるなら資金を絞って楽しむ程度で」と指示、今回も高値掴みを回避して頂きました。アラスカ産原油の即時大量購入は叶わず、後は一隻でも日本のタンカーがホルムズ海峡を通過できれば積極買い開始となりますが、現状はまだ未達成であります。

兎にも角にもイラン情勢次第。現状、停戦・終戦への道を探り始めてはおりますが、米側の停戦条件は15項目に及んでおり、ことにウラン濃縮の完全停止が入っているのがネック。一方イランの終戦条件は、破壊した施設の弁償と周辺国からの米軍基地撤収、ホルムズ海峡の主権を認めるとの条件が入っている事から、このディールは簡単なものではないでしょう。

いずれにしても重大なターニングポイントに来ており、今後の主要シナリオは、①米国が地上戦へと踏み込む、②1ヵ月の停戦(その間に条件交渉)、③トランプが勝利を叫んで勝手に撤収の3パターン。①の場合は周辺国エネルギー設備への致命的な損傷や紅海側も通航不能状態に陥るなど世界は大混乱に向かう可能性が。②の場合、合意確率は2〜3割とは言え、安易に楽観に傾く株式市場の事、期限内ギリギリまではリスクオンの買い相場となりましょう、③については全くの未知数、そこからホルムズ海峡は開かれるのか、通航料は幾らになるのか、それによって売り材料にも買い材料にもなりましょう。結局、買われるか・売られるかの確率は5分5分であり、勝率5割では資産を作る為の投資には向きません。引き続き、4万7820円到達・買い線出現・ホルムズ通過確認を待つて下さい。

今後の流れとしては、②となった場合では一旦リスクオン相場に入り最大5万6000円までの戻り局面が期待出来る事から、期限が近づくまでは買い姿勢で。チャート的にも3月18日の5万5239円を上抜けば横ばい波動に移行、以降5万2000円割れが買い場に。逆に地上戦に踏み切った場合は長期化がほぼ確実となる事から原油危機を織り込む動きに。日経平均も4万7820円では下げ止まらず、最終的には、歴史的な下値である40ヵ月線・3万8400円処までの下げを想定すべきでしょう。

全体連動株についてはイラン情勢次第ですが、我が国はまだ原油備蓄も十分ありますので、慣れてしまえば個別材料株は買われる地合いとなりましょう。そのきっかけが来年度の予算案通過。それが4月11日には成立する事から、そこからは新たな資金を得た成長戦略17分野への物色が再開される事となりましょう。その17分野とは「AI・半導体」「造船」「量子」「合成生物学・バイオ」「航空・宇宙」「デジタル・サイバーセキュリティ」「コンテンツ」「フードテック」「資源・エネルギー安全保障・GX」「防災・国土強靱化」「創薬・先端医療」「フュージョンエネルギー」「マテリアル」「湾港ロジスティクス」「防衛産業」「情報通信」「海洋」であり、これらの中から循環物色が行われていく事に。今回の相場の下押しで良い位置から始められますので、11日以降は、買われ出したテーマに付き、短期回転で利益をトントンと積み上げて行きましょう。

エネルギー五本線推奨株

買銘柄 (投機好みの方向け・強い銘柄につけ・次世代半導体銘柄)

コードNo 6 3 8 7

サムコ

(東証プライム信用銘柄 8500円) 資本金16億円

推奨ポイント

足元での株式市場はイラン情勢次第であり、楽観・悲観が入り乱れ日々地合いが変化。週末はイランによるホルムズ海峡完全封鎖発言で売られております。今後も一喜一憂を繰り返す事となりそうですが、我々が積極買いする条件は「日本のタンカーがホルムズ海峡を通過すること」か「買い線出現」。試し買いの条件は「4万7820円到達」か「1ヵ月間の停戦が決まる」事であり、それ以外の上げは「休むも相場」を継続。利喰い・撤退ルールを徹底した事により現在株式市場を悠々と外から眺めている我々にとっては、今年もまた天与の買い場を提供してくれる絶好のチャンスであり、安く買わせてくれると言うならとことん安値で拾わせて頂き、その後の大儲けを掴み取りましょう。それまでは引き続き、やるならスリルを楽しむ目的で。

さて、本日採り挙げる「サムコ」は、電子デバイス関連の製造装置を幅広く手掛けており、特に化合物半導体(次世代パワー半導体)を中心としたオプトエレクトロニクス分野での技術力は頭1つ抜け出しています。ナノレベルでの薄膜形成や微細加工などでニッチトップの実力を遺憾なく発揮。足元ではAIデータセンサ向け光通信用デバイスの製造プロセスで引き合いが活況です。

今期・来期も増収増益で一株利益は各々215.8円と232.8円の見込み。野村證券が共同保有の形で同社株を8%まで買い増しており、市場では「隠れた投資主体が存在するのでは」と株高思惑を呼んでいますので、その表面化にも期待しつつ、逆行高についてみましょう。

買方法

時価から7250円への買い下がり。

目標値

目標は短期で1万円。(百株単位銘柄)

実践投資のヒント

この頁は単なるアフタケアではなく、弊社独自の調査網が捉えたナマの情報を、さらに五本線のフルイにかけ厳選したもので、売買両面にわたり即座に反応を示す、打てば響く投資のヒントです。どうぞ推奨株と同等の感覚で深甚のご注目を賜り、お好みに合わせて実践投資にお役立て下さるよう、お願い申し上げます。

アフタケア

リガク・ホールディングス ☆ (東証プライム信用銘柄 コードNo.268A 時価2284円)
無理してやらずとも良い地合ですが、始めた方は「1割高・1部利喰い」で勝ちが確定済み、次は目標達成に向け追い上げを。なお、持ち株は引き続き「段階的利喰いと撤退ルールを厳守」、リスクコントロールと共に、勝って終わるべき銘柄で負けて終わる事のないようにお願い致します。

堅実派の方向け銘柄

INPEX 「インペックス」 ☆ (東証プライム貸借銘柄 コードNo.1605 時価4900円)
昨年9月にも買うべき銘柄として推奨し追い上げ中の銘柄です。同社は原油・ガス開発生産の国内最大手。各国が天然ガス・原油調達に本腰を入れて動き出し、日本政府からは同社を介してインドと、原油・ナフサとLPGとの交換貿易が実現へ。またインドネシアも同様にLPG融通を同社に求めて来ており、近く首脳会談が行われる予定。今後も国際貿易の主役となる期待が高まっておりますので、次は5700円を目標に、時価から4350円への買い下がり。 (百株単位)

投機好みの方向け銘柄

NEXT NOTES ドバイ原油先物 **ダブル・ブル ETN**

☆ (東証プライム信用銘柄 コードNo.2038 時価2817円)
こちらはドバイ原油に対し2倍の値動きをするETN。3月14日のレポートで1回転、先週25日の特別会員様向けテレホンサービスでもう1回転効かせて頂きましたが、1カ月の停戦もなしに原油価格が突っ込み、94ドルを割り込む事があれば、その日の株価でエントリー (見られない人は2700円から)、そこから2500円への買い下がり。目標は3200円。 (一株単位)

仕手株好みの方向け銘柄

メルカリ ☆ (東証プライム貸借銘柄 コードNo.4385 時価3764円)

兜町のプロ筋が介入している銘柄です。同社はフリマアプリの国内最大手。マーケットプレイスの越境取引やフィンテック事業の成長が目覚ましく、「メルカード」会員の増加や、クレジットサービスの拡大が顕著。中間期業績は77%営業増益となり通期も上方修正、一株利益の127円は更なる引き上げも有望です。アナリスト筋は「フィンテック事業の一段の成長が期待できる」と強気しており、時価から3250円への買い下がり。目標は4600円。 (百株単位)

穴株好みの方向け銘柄

ブルーイノベーション ☆ (東証グロース信用銘柄 コードNo.5597 時価1719円)
同社はドローン等を遠隔制御・統合管理するソフトに強み。ドローンを活用した下水道管路の調査・点検では、従来の6割程工期を短縮できる事から、老朽化に悩む下水道工事需要が拡大しましょう。「国土強靱化」銘柄の一角であり、またウクライナ・イラン紛争を経て、防衛力の観点からもドローンへの重要性見直しが進んでいます。時価から1500円への買い下がり。目標は2100円。 (百株単位)

調査マン駆けある記

TOA 「トーア」 ☆ (東証プライム貸借銘柄 コードNo.6809 時価1898円)
同社は音響設備やセキュリティシステムを手掛ける企業。国内放送機器の好調に加え、海外では鉄道車両向け納入が好調。またAIカメラ・IPネットワークを活用した工場のスマート化提案や、災害時緊急放送機器は国土強靱化のテーマに沿う商品です。今3月期は11年ぶりに最高益を更新する見通しで一株利益は103円に。チャートもこの地合いの中で右肩上がり継続中ですので、2300円を目標に、時価から1700円への買い下がり。 (百株単位)

カラ売りコーナー

サイボウズ ☆ (東証プライス貸借銘柄 コードNo.4776 時価2098円)
時価から2300円への売り上がりで、目標は1700円。 (百株単位)

(以上禁複写転載・3月28日)